



鳥獣被害の対策に取り組みましょう！

当JA管内では、イノシシ、シカなどの野生動物による農作物の被害が発生しています。野生動物にとって山に餌が少なくなる冬場に、被害を減らせるように対策をしましょう。

① 餌付けをしない

野生動物の餌となるものを管理・除去します。

● 収穫していないままの果樹

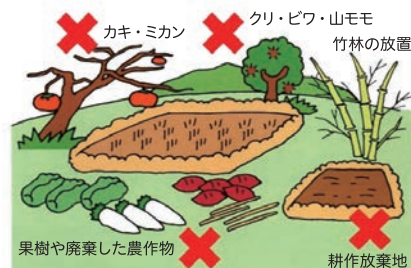
→ 放置せず、管理できないものは地域で話し合いの上伐採しましょう。

● ハクサイやキャベツの外葉、虫に食べられた実などの収穫残渣

→ 土にすき込んだり、コンポストに入れて堆肥化して処分します。

● 稲刈り後に生えてくるひこばえ

→ 早めに耕耘しましょう。



② 野生動物の隠れ場所をなくす

圃場の周りのヤブや雑草はこまめに草刈りしましょう。見通しが良いと、野生動物が警戒し、圃場に侵入しにくくなります。

③ 防護柵を設置する

野生動物を圃場に近づけないためには、防護柵の設置が有効です。

表1. 矢印防護柵の種類と特徴

	物理柵	心理柵
	障壁によって侵入を防ぐ	学習効果によって侵入を防ぐ
柵の種類	ワイヤーメッシュ柵、トタン板金網柵、ネット柵	電気柵
特徴	設置は大変ですが、電気柵ほどこまめな管理が必要ありません。	設置が簡単で価格も安価ですが、電圧の維持と、対象動物に合わせた設置が必要です。

- 柵は作物から1mほど外側に設置し、野生動物が頭や足を突っ込んでも届かないようにします。
- 設置後は、侵入がないか定期的に見回ります。特に柵のつなぎ目や地面との隙間から侵入しやすいので、よく確認します。柵の壊れ・破れ等があれば修繕します。

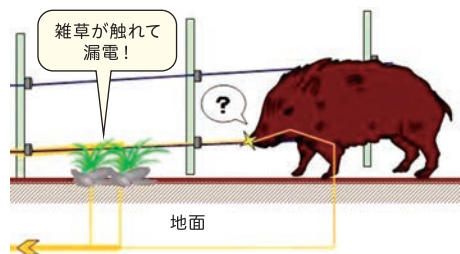
電気柵の設置ポイント

電気柵を適切に使用するため、以下のポイントを押さえましょう。

大阪府 有害動物侵入防護柵の設置・管理マニュアルより引用

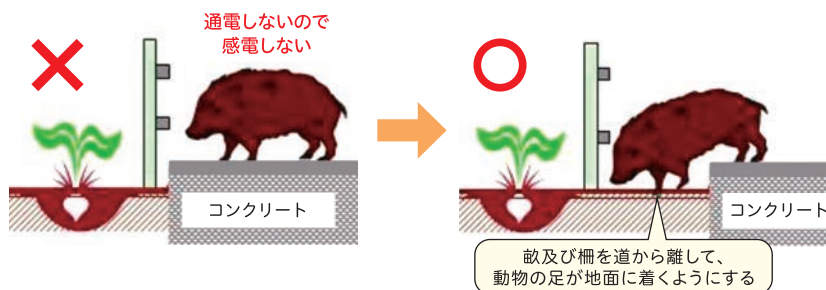
POINT 1 電線近くの草刈りはこまめに行う

雑草や作物が電線に触れて漏電すると、動物が電気ショックを感じません。



POINT 2 柵の外側50cmが土の地面の場所に設置

電気柵の外側がコンクリートやアスファルトで舗装されていると通電しません。



POINT 3 ガイシは作物の外側に向ける

支柱のガイシが作物側に向いていると、電線に触れる前に支柱が押し倒されてしまいます。



POINT 4 動物の鼻先に電線がくるように調整

野生動物の鼻先に電線がくるように、間隔を調整します。地面と最下線の間隔を30cm以上にすると下から潜り込まれてしまいますので気を付けましょう。

表2. 対象の動物ごとの段数、間隔

	電線の段数	電線の間隔	地面と最下線との間隔
イノシシ	2段程度	20cm程度	15~20cm
シカ	4段以上	25cm程度	25cm以下